

ロシア
東欧

経済速報

(社)ロシア東欧貿易会

2002年(平成14年)12月15日号 No.1247

目次

成長を模索するロシア医薬品業界	坂口泉 1
エトセトラ	10
モスクワ・メルマガNo.10(科学技術特集)発行のお知らせ / 10	
ロシア人、NIS諸国人の日本入国ビザ申請手続きの変更 / 11	
CIS・中東欧諸国通貨の為替レート	11

成長を模索するロシア医薬品業界

はじめに

消費ブームを反映してか、ロシアの医薬品分野でも小売形態が様変わりしている。たとえば、最近、モスクワをはじめとする大都市では、「薬品も売るスーパーマーケット」というコンセプトの薬局が次々と登場し、大きな賑わいを見せている。その一角だけを見ていると、ロシアの薬品分野は新しい環境への適応に成功し本格的な成長軌道にのったとの印象を持ってしまいがちである。しかし、下流部門、すなわち消費市場に近い部分の華やかさとは裏腹に、ロシアの薬品分野の上流部門(研究開発部門、製造部門)の状況は非常に厳しい。本稿では、様々な数字を通し、明暗に彩られたロシアの薬品業界の実態を紹介したい。

1. 市場の概況および特性

(1) 市場の概況

ロシアの薬品市場の規模(ドル・ベース)は、1995年以降、順調に拡大し続けピークの1997年には29億5,000万ドルに達した(第1図)。しかし、経済危機の影響もあり1999年にはピーク時の半分程度にまで規模が縮小した。その後、2000年、2001年と順調な回復ぶりを示したが、付加価値税の問題¹⁾が絡んで薬品の価格が全般的に値上がりしたことや、2001年から2002年にかけての冬に流感が例年ほど猛威を振るわなかったことが影響して、2002年の上半期の薬品の売れ行きは前年同期に比べて約15%も減少した(『イズベスチヤ』紙、2002.8.13)。第3